

## 「(仮称)白岡町自治基本条例(白岡町まちづくり条例)をつくる会」

### 第27回全体会議の議事録(H22.10.30)

#### 【全体会議】

**事務局** これから第27回白岡町自治基本条例をつくる会を始めます。それでは、開催にあたりまして内山会長から挨拶を頂きます。よろしくお願いします。

**内山会長** 台風が近づいてきています。今夜には最接近するようなので、この会議を午前中に終わらせたいと思っています。このような状況の中ですが、積極的なご議論をお願いします。

**事務局** 続きまして、高澤秘書広聴課長より挨拶を申し上げます。

**高澤課長** 悪天候の中、お越しいただきありがとうございます。今回でつくる会は27回になり、みなさんが全体を振り返って議論する大詰めになります。ご協力をお願いします。

**事務局** それでは議事に入ります。進行については、内山会長をお願いします。よろしくお願いします。

**内山会長** 暫時、議長職を務めさせていただきます。よろしくお願いします。本日の全体会議の進め方について事務局から説明があります。

**事務局** 資料の確認をします。全体会議の進め方の説明をします。最初に前文について、前回の全体会議で修正した部分を確認します。その後に、素案全体の見直しに係る委員の意見に対し、作業部会が方向性を出したものを検討します。資料の「『白岡町自治基本条例』見直し意見とそれに対する方向性一覧(No.1)」については、一つひとつ確認していきます。網掛けになっている部分については、みなさんが合意して、結論を出していただきたいと考えています。資料の「『白岡町自治基本条例』見直し意見とそれに対する方向性一覧(No.2)」は既に議論していることや法制執務上の整理に委ねることなどをこの資料にまとめています。しかし、資料の「『白岡町自治基本条例』見直し意見とそれに対する方向性一覧(No.2)」についても一つひとつ確認していただきたいと思っています。作業部会で修正した点を反映した資料がA3の白岡町自治基本条例の素案になります。時間があれば、この条例で伝えたい部分についての共通認識を持ちたいと思います。

**内山会長** 質問はありますか。無いようなので、議題に入ります。「前文」について確認します。修正した点を確認します。第3段落の1行目の「自分たちのまち」を削除しています。また、第4段落の始めを「私たちは、こうした考え方に基づき、ここに白岡町の最高規範として『白岡町自治基本条例』を制定します。」と修正しています。これでよろしいでしょうか。では、合意とします。資料の「素案に対する職員意見等の対応 No.1」をご覧ください。前回議論して、修正した点を確認します。前回の議論で「行政」の定義を元の案に戻すことになりました。定義は、「この条例において行政とは、町長及びその他の町の執行機関を言います。」です。これでよろしいでしょうか。では、合意とします。資料の「素案に対する職員意見等の対応 No.2」をご覧ください。行政の責務は「行政は町民の信託に応え」となっていましたが、「信託」を「信託」に修正しています。町長の責務の中にも同じような文があり、「信託」を使っているの、文言を整理するために修正しています。これでよろしいでしょうか。では、合意とします。また、内容は「行政は町民主体の行政運営を行うとともに、透明性があり」の「町政運営」を「行政運営」に変更しています。さらに、「行政は、透明性があり、開かれた町民主体の行政運営」と修正しています。これでよろしいでしょうか。では、合意とします。

では、みなさんからいただいた意見についての検討をします。当初、条文全体ができてから、整理するための議論をしたいという意見がありました。そこで、今回全体を見て、修正したり、削除したりするという意見が出ています。基本的には、全ての意見を議論していきます。資料の「『自治基本条例』見直し意見とそれに対する方向性

一覧(No.1)」をご覧ください。1番目の意見は「コミュニティ」を「地域自治組織」に変更した方が良いという意見です。作業部会としては、「コミュニティ」のままにしたいと考えました。その理由は、ここでは地域自治組織だけを指しているのではなく、幅広く捉えているからです。「コミュニティ」という言葉を地域自治組織に変更している部分もあります。しかし、作業部会は意味合いを考えて「コミュニティ」という言葉を残しています。みなさんはどのように思いますか。「コミュニティ」のままでよろしいでしょうか。では、合意とします。2番目の意見は、「前文にあります理念を全うするためには、内容が薄められているものが散見されます。現状より活発化する具体的な方策はないので、『醸成』にしたかどうかと思う」という意見です。これについては、作業部会がそのように修正することに賛成で一致しました。そのように修正することでよろしいでしょうか。では、合意とします。3番目の意見は、大項目「町民」の中項目「町民の権利」を「町民は、まちづくりの主役として、自ら考え主体的に行動するため、必要な情報や考え方を」から「町民は、必要な情報や知識」に修正するという意見です。見て分かるように簡略化されています。これについての説明をお願いします。

**神田副会長** ここで一番言いたいことは、後半部分なので「まちづくりの主役として、自ら考え主体的に行動するため」と限定するべきではないと思います。作業部会では、生涯学習との区別を明確にするために「まちづくり」という言葉を残した方が良いということでもとまりました。

**内山会長** みなさんはどのように考えますか。4番目と5番目の意見も同ような内容なので、それらも含めて議論していただきたいと思います。作業部会による方向性としては、「町民は、まちづくりに必要な情報や知識を学習する権利」に修正することでまとまっています。これは、「必要な情報・知識を得る」ことを強調したいために簡潔にしています。また、生涯学習との違いを明確にするため「まちづくり」という言葉を残しています。

**牛山教授** 今まで議論して作り上げてきた条文ですが、全体を通して見た時に、重複や矛盾があれば修正すべきです。それを前提に考えると、「まちづくりの主役として、自ら考え主体的に行動するため」の重みを考慮しなければいけません。それを削除する理由としては、先程の理由は弱いと思います。また、そのように単純化すると、前の条文と重複します。この項目は「まちづくり」という言葉とセットになって「必要な情報や考え方を学習する機会を得る」が書かれていることに意味があります。

**内山会長** 何か意見はありますか。

**櫻井委員** 今まで様々な議論してきたことを削除することは大変なことだと思います。根本的に直すことは難しいと思います。内容についてではなく、言葉の使い方についての修正をするべきです。

**内山会長** 今の意見の通りだと思います。よりよい姿にできるような議論をしたいと思います。

**神田副会長** 前回の全体会議の確認をしたいと思います。今回は、全員が合意に至らない限りは修正しません。また、過去に議論したことを再度議論するつもりもありません。

**櫻井委員** しかし、議論しなければ決まらない意見があります。

**神田副会長** 議論して、全員が合意に至ることであれば修正します。作業部会の案の通りに修正するではありません。作業部会の案に不満があれば、修正せずにこのままの案になります。

**櫻井委員** それぞれで議論した内容を忘れている場合もあります。また意見を出した委員の名前が入っており、意見を言いにくいです。

**神田副会長** 根本から再度議論することはありません。全体が合意できるもののみを修正するという前提で議論します。そのための議論のたたき台を作業部会が提案しています。

**櫻井委員** 今までの議論の背景を踏まえて、どのような理由から修正したいのかということが分かりません。

**牛山教授** 意見を出した委員の名前は入っていますが、作業部会の提案として理解し、議論するべきです。

**内山会長** 作業部会もそのような意見があることを前提に議論しました。その結果が資料になっています。

**松井委員** 資料の No.1と No.2は作業部会が採択した意見と却下した意見という分け方でしょうか。作業部会が却下された意見についても重要な意見があります。

**内山会長** No.2に記載されている意見は、作業部会が却下した訳ではありません。No.1と No.2に記載されている意見の性格の違いはありますが、どちらについても議論します。

**松井委員** No.2にも前文についての意見があります。進め方としておかしいのではないのでしょうか。

**牛山教授** 資料の No.1の前文についての議論が終わったのであれば、No.2の前文についての議論をするべきという意見ですね。

**高澤課長** 資料のNo.1とNo.2の意見の違いについて説明します。前回の全体会議の際に条例素案の見直しについてという資料を配布しました。その中の主たるルールとして、過去に議論をして、合意してきたことについては再度議論しないというルールを書いています。そのルールに則って、No.1と No.2に意見を振り分けています。No.2は議論済みのもの、既につくる会として方向性が出されているものです。却下した訳ではありません。また、「定義をまとめて書く」という意見については、既にそのようにまとめています。議論するまでもなく、既に行っている意見も No.2に書かれています。

**松井委員** 委員は議論済みと考えていない意見があると思います。

**牛山教授** 議論済みかどうかについては、資料の No.2を検討する際に議論になると思います。

**松井委員** 先程のお話では、既に議論したという結論付けで終わりのような印象を受けます。

**日下委員** 資料の No.1は文言の整理についての意見です。No.2の意見は考え方や背景が関わる意見だだと思います。作業部会の結論に対して納得できないものもありますが、それについては作業部会の意見であると理解して議論してはいかがでしょうか。

**牛山教授** 作業部会で議論して、結論に対して納得されていないということでしょうか。

**日下委員** 作業部会で議論していますが、全体で議論することになっている意見もあります。

**牛山教授** 確認ですが、作業部会の結論が資料に書かれています。これは作業部会の結論になっていない場合もあるということでしょうか。

**日下委員** 私はそのように理解しています。

**内山会長** 作業部会の方向性は出ています。

**神田副会長** 本日は、既に議論したことを再度議論しないというルールがありました。作業部会はそれを守って、方向性を出しています。改めて作業部会で過去の議論をした訳ではありません。

**松井委員** 前々回の作業部会で全体の見直しをしたいという意見を出しました。次回はフォーラムで素案発表をする日程になっています。議論していく過程の中で、最後に見直しをする際に意見として出すというまとめ方をしていることもあります。そのようなことを踏まえて、一部については保留事項だと考えていました。しかし、見直しの日程が入っていないことから前々回の作業部会で提案しました。保留事項については多くありました。しかし、それら全てについて議論しては時間がないということから、基本的なことを再度議論するようなことをしないというルールが作られました。日程は大事だと思いますが、議論し尽くされていないものを発表するべきではないと思います。

**牛山教授** 作業部会が議論済みと判断した意見についても、議論し尽くされていないと反論することはあると思います。それは、後で確認することになっています。私は、作業部会でもまとまっていないのかどうかについて確認をしました。今、問題になっていることは議論する順番です。項目ごとに議論するのか、資料に記載されている番号

順に議論するかを決めるべきです。

**日下委員** 作業部会で結論が出ていない項目もあります。具体的には、12番は「項目自体の削除もあるので、全体会議で議論する。」と書かれています。

**内山会長** それは、「全体会議で議論する」という結論を作業部会が出しました。作業部会ではそのような結論を出しています。進め方についても様々な意見があると思います。資料に記載されている順番に沿って議論していくことでよろしいでしょうか。では、そのように進めていきます。

**平田委員** 私は、項目ごとに議論した方が良いと思います。

**内山会長** 過去に議論した意見もあるので、資料ごとに議論した方が良いと思いました。そのように進めていくことでよろしいでしょうか。では、そのように進めていきます。今は、3番から5番までの意見を議論しています。簡略化するという意見と、一部削除するという意見が出ています。作業部会では、全体で議論するという結論にしているので、みなさんの意見を聞きたいと思います。

**牛山教授** 先程の意見の繰り返しになりますが、この項目では、町民が主体的にまちづくりを担うことと、学習することが一体で議論されていました。「まちづくりの主体として、自ら考え主体的に行動するため」を削除すると、前の条文と区別がつかなくなります。内容についての修正でなければ、文言はこのままで良いと思います。

**櫻井委員** 削除した場合と削除しない場合では何が違うのかを説明してほしいと思います。

**内山会長** 簡略化せずに現状のままでよろしいでしょうか。では、合意とします。6番目と7番目の意見は、中項目「参画と協働」についての意見です。内容 1は「町はまちづくりに関し、町民の提案等の把握に努めるとともに、町民から提出された提案等を尊重するものとします。」と書かれています。しかし、内容 2には内容 1の意味が含まれていて、さらに公表することまで書かれています。そうであれば、内容 2は削除しても良いという意見です。

**松井委員** 内容 1で一般的なことを言っていて、内容 2は重要事項について述べています。

**櫻井委員** 内容 2は「尊重する」と書いています。その一部が内容 1だと思います。

**牛山教授** 文言整理の必要性は感じます。それは法制作業で整理されると思います。内容 2は町民からの政策提案について書いています。内容 1は行政が計画策定をする際には、町民の意見を聞くことを書いています。内容 1と内容 2では、条文の趣旨が違います。そのことを明確に書いておけば、法制作業で明確に整理していただけると思います。趣旨が違うので、両方が書かれていても良いと思います。

**内山会長** 全体会議としては、現状のままで良いということではよろしいでしょうか。では合意とします。

**遠藤委員** 8、9番目の意見も同じように考えて良いのではないのでしょうか。

**内山会長** そのように考えても良いと思います。8番、9番の意見についても現状のままにするという対応でよろしいでしょうか。では、合意とします。10番目の意見は同じ項目の内容 1に書かれている「聴く」を「聞く」に修正するという意見です。この意見について、作業部会では、「聴く」のままにするという結論を出しました。

**藤巻委員** 「聴く」と「聞く」は意味が違います。集中して聞くときには、「聴く」を使います。様々な人の意見を聞くときには、「聞く」が適当だと思います。

**遠藤委員** 行政が意見を聴取する主体です。行政は集中して「聴く」必要があります。誠実に意見を聴いて、対応してもらえば、「聴く」が適当です。しかし、これは法制担当に任せることになりました。我々の素案としては、「聴く」を使うということで、このままの案で良いと思います。

**高澤課長** 事務局としても不勉強で、どちらが適当かは調べていません。藤巻委員の意見については、十分に理解できます。この意見については、法制担当に確認させていただきます。

**内山会長** 現状は作業部会の方向性でよろしいでしょうか。では、合意とします。11番目の意見は、同じ項目の内

容 「協働を求められたら誠実に」を「協働を求められた場合、誠実に」と修正するという意見です。作業部会としては、そのように修正するという方向性を出しました。

**牛山教授** ここは法制担当の整理に任せることで良いと思いますが、おそらく「場合に」ではなく、「時は」が適当です。

**内山会長** では、法制担当に任せることにして、現状では「場合」を使うことにします。12番と20番から24番までの意見をまとめて議論します。12番は行政の項目全体についての意見であり、「条文数が多いのではないか。この条例が『自治基本条例』であることを考えると、この項目はこれほど細かく規定しなくてもいいように思え、また、他の大項目の条文数に対して、アンバランスな感じを受ける。」という意見です。作業部会としては、この全体会議で議論するという結論です。また、20番から24番までの意見は、大項目「行政」の中項目「行政運営」についての意見です。ここは内容が まであり、内容についての細かい指摘から、この項目が不要という意見まで様々です。

**遠藤委員** この項目は自治基本条例ではなく、行政改革や行政運営基本法のように読めます。さらに、産業や農業、環境を前文に入れた時と同じように考えて、削除しても良いと思います。

**金子委員** みなさんの行政に対する想いが強いことは分かります。しかし、行政の項目は他の項目の倍の量です。整理した方が、最高規範としての条例のバランスが取れると思います。

**内山会長** ボリュームがあることについては気にしなくても良いと思います。しかし、そのようなことも含めて議論したいと思います。

**遠藤委員** 行政基本法があれば、この項目は必要ないと思います。

**松井委員** 自治基本条例の素案はみんなで作ったものなので、尊重されなければいけません。行政の項目が多いということは、それだけ関心があるということです。また、それだけ行政を見ているということを理解しなければいけません。町民が行政を信頼しているのであれば、この項目は無くなると思います。

**櫻井委員** 今の意見と同じです。自治を実施するなかで、行政にはさらなる努力をしていただかないといけません。そのような意味からもこの項目は削除するべきではありません。

**嶋津委員** 法制面から考えて、文章を簡素化すべきです。法制担当に任せることで良いのではないのでしょうか。

**牛山教授** 確かに行政の項目はボリュームが多いです。ただし、町民や議会の項目は、責務や権利が中項目になっています。この大項目「行政」を中項目ごとに見ると、それほどボリュームがある訳ではありません。行政は組織が大きいので、大項目として「行政」でまとめるとボリュームが多いように見えます。遠藤委員のように、この項目は必要ないという意見もあると思いますが、ある程度の権力を持っている組織についてのあり方は、規定しても良いと思います。その上で、最低限書くべき項目が書かれていると考えてはいかがでしょうか。考え方としては良いと思いますが、どこの条文を削除するという意見でなければ、このままでも良いと思います。

**内山会長** ここまで来ると、専門的な知見から見るが必要になってくるように感じます。私たちの想いを受け止めてもらえるような進め方を法制担当に伝えていただければよいと思います。今の全体の意見としては、このままにするということで良いと思います。22番から24番までは文言整理についての意見です。これについての説明をお願いします。

**日下委員** 表現の問題であり、簡素化するために削除しても良いという意見です。

**内山会長** 古嶋委員はどのように考えていますか。

**古嶋委員** 文言整理についてであり、中身について変更する意見ではありません。

**内山会長** 法制担当に選択していただくということで良いと思います。現状のままにするということで、合意とします。

13番目の意見は中項目「行政の責務」の内容 についての意見です。「協働と参画」を「参画と協働」に修正するという意見です。作業部会としては、そのように修正するという結論を出しました。これでよろしいでしょうか。では、合意とします。14番目の意見は、中項目「行政の責務」の内容 、 についての意見です。大項目「情報の公開、提供及び共有」の で類似のことが述べられているので、不要ではないかという意見です。15番の意見も同じような意見です。作業部会は、内容 の情報公開に係る記述の部分を削除し、「行政は、町民の参加のもと、行政評価の実施に努めます。」にし、内容 を削除するという方向性を出しています。元の文章は、「 行政は、情報を公開し、また説明責任を果たし、町民参加のもと、行政評価の実施に努めます。 行政は、透明性があり、開かれた町民主体の行政運営に努めます。」という文章になっています。

**遠藤委員** 内容 の「行政は、情報を公開し、また説明責任を果たし」については、大項目「情報の公開、提供及び共有」における内容 の条文と重複しています。よって、「行政は、町民の参加のもと、行政評価の実施に努めます。」に簡略化すべきです。

**櫻井委員** 行政の責務から、情報公開についての規定を削除することですね。

**神田副会長** 同じことが大項目「情報の公開、提供及び共有」に書いています。

**櫻井委員** 「行政の責務」では、主語が「行政」であり、「情報の公開、提供及び共有」の主語は「町」になっていて、主語が違います。

**牛山教授** 中項目「情報の公開、提供及び共有」の内容 についてですが、主語が「町」で適当かどうかは議論の余地があります。中項目「行政の責務」の内容 には、行政評価の実施について書かれていますが、実質的には行政運営についての規定です。中項目「行政運営」を見ると、内容 に「総合計画や行政評価を踏まえ」という文言が入っています。よって、中項目「行政の責務」の内容 は必要ないと思います。

**遠藤委員** 行政運営についての条文が多いので、中項目「行政の責務」の内容 についても必要ないと思います。

**内山会長** 説明責任については中項目「情報の公開、提供及び共有」に入っています。そして、行政評価については、中項目「行政運営」に入っています。中項目「行政の責務」の内容 は削除することでよろしいでしょうか。では、合意とします。

**野口委員** 資料 No.2については、後に議論するのでしょうか。

**内山会長** 資料 No.1が終わった後に議論します。

**平田委員** 中項目「行政の責務」の内容 はなぜ、「透明性」という文言を使ったのでしょうか。他の項目では、「透明」にしています。「透明性」を使うと不透明なところがあるように感じます。よって、「透明」に修正した方が明確になると思います。

**内山会長** みなさんはどのように考えますか。

**野口委員** 「透明」という文言は必要ないと思います。「開かれた」に意味が含まれます。

**内山会長** 過去にもそのような議論がありました。議員の資質について議論したことにも関わっています。これは町民が行政に期待しているところです。よって、「透明で」は残すことでよろしいですね。「透明で、開かれた」に修正することでよろしいですか。では、合意とします。17番の意見は中項目「町長の責務」の内容 について、「公正、公平にかつ誠実に」を「公正、公平かつ誠実に」に修正するという意見です。作業部会もそのように修正するという方向性を出しています。このように修正することでよろしいですか。では、合意とします。18番は中項目「町長の責務」の内容 を「報告しなければなりません」から「町民に報告しなければなりません」に修正するという意見です。主語がないので、作業部会もそのように修正するという方向性を出しています。そのように修正することでよろ

いいでしょうか。では、合意とします。19番は中項目「職員の責務」について、「職務を果たす」を「職務を遂行する」と修正するという意見です。中項目「議員の責務」でも「遂行」という文言を使っているので、このように修正することでよろしいでしょうか。では、合意とします。

**牛山教授** 確認ですが、大項目「行政」の中項目「町長の責務」の内容は2つの意味が入っています。実現に取り組むことと報告についての2つの意味が入っています。2つのことを言うのであれば、条文を2つに分けなければいけません。報告することを重視するのであれば、そのように修正しなければいけません。そのことを明確にするべきです。

**五十嵐委員** 報告することを重視していたと思います。

**牛山教授** 報告することを重視しているのであれば、「町長は、町政運営の基本方針を定め、その実現に取り組んだ結果について報告をしなければなりません。」と修正すると明確になります。

**内山会長** そのように修正することでよろしいでしょうか。では、合意とします。ここで5分休憩します。

\* \* \* \* \*

**内山会長** 引き続き、議論をしていきます。25番の意見は、大項目「議会」の中項目「議会の責務」における内容の「自らも」を削除するという意見です。作業部会としても削除するという方向性です。26番の意見は、同じ条文について、長文であることから、「町民の福祉向上と地域生活の発展を目指し」を削除するという意見です。中項目「議会の責務」の内容は、「議会は、町的意思決定機関として、この条例の理念を遵守するとともに、町民の生活と権利を守り、町民の福祉向上と地域生活の発展を目指し、自らも政策の提言及び条例の立案に取り組み、自治の推進に努めます。」となっています。

**高澤課長** 25、26番の意見を足すと、「議会は、町的意思決定機関として、この条例の理念を遵守するとともに、町民の生活と権利を守り、政策の提言及び条例の立案に取り組み、自治の推進に努めます。」に修正することになります。

**吉野委員** 自治基本条例で議会のことを書くのであれば、「町民の福祉向上と地域生活の発展を目指し」は入れても良いと思います。

**内山会長** 「自らも」については、削除することでよろしいでしょうか。

**櫻井委員** 議会が自分たちで行ってほしいという我々の想いがこの「自らも」に入っています。

**遠藤委員** 長文になったとしても入れておいた方が良いと思います。しかし、議会のことを言っているのは自明なので、「自らも」はあえて入れなくても良いと思います。

**日下委員** 他と比べると長文になっています。そこまで強いこだわりはありませんが、文言整理をするべきだと思います。

**内山会長** では、「自らも」のみを削除することでよろしいでしょうか。では、合意とします。

**嶋津委員** 19番の意見については、どのような結果になりましたか。

**内山会長** 意見のとおり「遂行」に修正することになりました。

**嶋津委員** 行政全体を簡素化するために、中項目「町長の責務」と中項目「職員の責務」を1つの項目にしてはいいかがでしょうか。

**内山会長** 町長と職員の責務は中身が違うので一緒にすることは難しいと思います。では、27番と28番の意見を検討します。27番は中項目「地域活動と地域自治組織」の内容について、「自己実現」を「自己啓発」に修正

するという意見です。作業部会としては、「自己実現」のままにするという方向性を出しています。28番の意見は、内容 について、文末の「まちづくりへの参画に努めるものとします」を削除して「支援します。」に修正するという意見です。現在の案は「 町は、協働のパートナーとして地域自治組織の役割を重視し、その活動を支援するとともに、まちづくりへの参画に努めるものとします。」となっています。これを「町は、協働のパートナーとして地域自治組織の役割を重視し、その活動を支援します。」に修正するという意見です。

**牛山教授** そのように修正するのであれば、主語を何にするべきかを考えなければいけません。

**高澤課長** 文末を「支援する」にするのであれば、主語は「行政」にするということですね。そうではなく、「参画」という言葉を入れておくのであれば、様々な相手が想定されるので、主語を「町」にするということですね。

**牛山教授** 「まちづくりへの参画に努めるものとします」を削除することには賛成です。そのように修正するのであれば、主語を「行政」にするべきです。

**松井委員** 回覧板や広報などは、情報を一方的に流すことになります。協働作業をするためには、町民を巻き込むことが大切なので、「参画」という言葉を入れていました。

**牛山教授** 「町」が支援する主体であると書きながら、参画の主語も「町」になっているので、文末を削除するという意見です。

**遠藤委員** 「参画」については他の項目でも書いています。気持ちとしては、ここにも書きたいとは思いますが、他の項目にも書いているという認識で良いと思います。

**内山会長** 今までの議論を集約すると、中項目「地域活動と地域自治組織」の内容 は「行政は、協働のパートナーとして地域自治組織の役割を重視し、その活動を支援します。」に修正するという事でよろしいでしょうか。

**松井委員** ここは、行政区のことを町が支援し、みんなが参画するという内容にしたいという議論をしたと理解しています。

**牛山教授** 今のご説明のように、この項目では、行政区を始めとした地域自治組織のあり方を考えていたと思います。しかし、まちづくりの参画に努めるのは「町民」です。そのことを踏まえると、内容 にそのような中身を入れるべきです。松井委員の意見をより明確に条文化することを考えると、「町民は、各種の地域活動を通じ、また地域自治組織に参加する」と書くことになります。しかし、自治会への強制的な加入については問題になる恐れがあるので、抽象的な書き方にして、努力を促す文にすることしかできません。

**松井委員** 自治会への強制加入は認められていません。現状としては加入者が減っています。自治基本条例の中に、せめて「参加することに努めてほしい」という文言を入れていただきたいと思います。それを書くと、この自治基本条例に書いていることを根拠に、自治会への参加を促すことができます。

**遠藤委員** 大項目「町民」、中項目「町民の責務」の内容 に「町民は、まちづくりと地域の課題解決のため、主体的に参加し、連携・協働のもと、行動をしなければなりません。」と書いています。これ以上のことを書くことは難しいと思います。

**松井委員** 遠藤委員はそうのように理解していますが、一般の人は中項目「地域活動と地域自治組織」を見ると思います。

**遠藤委員** そうであれば、中項目「地域活動と地域自治組織」の内容 は町民のことを書いているので、そこに書くしかないです。

**牛山教授** みなさんの想いは一致しています。しかし、「地域自治組織への参加に努める」と書くことは難しいと思います。

**神田副会長** 行政区を入れるかどうかで議論になりました。また、それを入れる項目が適しているかどうかの議論も



ありました。

**松井委員** そのような理由から、「行政区」ではなく、「地域自治組織」という言葉を用いています。それは良いと思います。問題は、参加を促すかことを書くかどうかです。行政区で努力している人もいれば、そうではない人もいます。そのような現状でこの条例の理念を実現できるでしょうか。

**牛山教授** 条例上、書くことができるかどうかの話をしています。松井委員のご意見に反対している訳ではありません。地域自治組織への参加について、解説や趣旨で述べることは良いと思います。しかし、これが条例であるということを考えると、地域自治組織に入るべきことを規範的に書くと、法律上の関係が問題になってきます。解説に「地域自治組織に参加することを意味している」と書くことはできますが、条文として明確に書くことは難しいです。

**嶋津委員** 中項目「地域活動と地域自治組織」の内容は「町民」が主語になっていて、内容は「行政」が主語になっています。そうであれば、内容を大項目「町民」に入れて、内容を大項目「行政」に入れて、この項目を削除してはいかがでしょうか。

**遠藤委員** ここは地域自治組織を特段に取り上げて書いています。地域自治組織について特段取り上げる必要がないということであれば、そのようにすることも考えられます。しかし、みなさんが取り上げる必要があるということで項目があります。

**神田副会長** 地域自治組織を項目として取り上げていることが特色です。

**遠藤委員** 地域自治組織への参加については、解説に書けば良いのではないのでしょうか。

**平田委員** 他の項目を見ると、項目名が主語になっている場合が多いです。しかし、この項目は違います。地域活動や地域自治組織が何かを説明してから、条文を書いた方が分かりやすいと思います。私たちが自治会や行政区を地域自治組織という言葉で表していることを町民の方に理解していただけるのでしょうか。

**遠藤委員** それは、今まで書こうと考えてきました。しかし、今まで書くことができなかったことです。

**平田委員** もっと分かりやすく書くことはできないのでしょうか。

**遠藤委員** 最初は「行政区」と書いていましたが、これ以上簡単に書くことはできませんでした。

**牛山教授** 将来にわたって、地域自治組織を行政区として理解するか、または新しい組織を考えるなどの明確な方針があれば分かりやすく書くことができます。現状では、地域自治組織として行政区が明確に示されているとはいえ、将来にわたって行政区で良いかどうかの結論を出すことはできません。よって、定義もせずに、一般的な表現として「地域自治組織」という言葉を使っています。そのような明確な方針が無いなかで、地域自治組織を分かりやすい言葉で書くことはできません。

**内山会長** 当初は、この項目の内容に定義を書いていました。その定義は大項目「総則」の中項目「定義」に入っています。そのことを踏まえて考えると分かりやすいと思います。

**牛山教授** 地域自治組織の定義はありますが、行政区に限定していません。様々な組織、団体が地域自治組織であるということを書いているので、これ以上分かりやすく書くことは難しいです。

**櫻井委員** 中項目「地域活動と地域自治組織」の内容とを入れ替えても良いと思います。

**内山会長** 項目が「地域活動と地域自治組織」という名称であれば、そのように修正しても良いと思います。そのように修正することでよろしいでしょうか。では、合意とします。

**松井委員** この項目の内容に「自己実現」と書かれていますが、どのような意味でしょうか。

**牛山教授** 地域の様々な活動に参加することで自分の可能性を見つけ、その可能性を発揮していくことです。

**内山会長** 当初は、「啓発」という言葉もありました。

**日下委員** 目標を定めて、それに向かって進んでいくという意味ですね。自己啓発よりも大きい意味で、「自己実現」を使っています。

**内山会長** では、中項目「地域活動と地域自治組織」をまとめます。内容 は「行政は、協働のパートナーとして地域自治組織の役割を重視し、その活動を支援します。」、内容 は「町民は、各種の地域活動を通じ、地域の課題解決と自己実現を図り、地域の活性化に努めます。」にすることでよろしいでしょうか。では、合意とします。

**日下委員** そのように修正することで良いですが、項目名も内容に合わせて、「地域自治組織と地域活動」にしてはいかがでしょうか。

**内山会長** そのように修正することで良いと思います。

**古嶋委員** みなさんは、地域自治組織を行政区のように考えているのでしょうか。地域自治組織は、行政区だけではなく、様々な活動をしている方も含むということを確認したいと思います。

**櫻井委員** 今のお話は最初の定義に書かれているので、それで良いと思います。

**古嶋委員** 私もそれで良いと思いますが、議論の雰囲気として、行政区に限定されていたように思ったので、確認しました。

**遠藤委員** 行政区に関する議論をする機会はありませんでした。私は行政区長を務めているが、実態は自治会です。行政区と言うと、強制的に入らなければいけません。この現状をどのように整理していくかが、白岡町役場の課題です。

**高澤課長** NPOやボランティア、自治会などの地域自治組織がある中で、行政区についての想いが強いという共通理解で良いと思います。

**内山会長** 先程議論したとおり、内容 と の順番を入れ替えます。それに伴って、大項目と中項目の名称も「地域自治組織と地域活動」とするという意見が出ています。

**牛山教授** 古嶋委員の意見を聞くと、元の案のままで良いと思います。

**平田委員** 定義はどこに書いているのでしょうか。

**内山会長** 定義は大項目「総論」の中項目「定義」に書いています。では、元の案のままでよろしいでしょうか。では、合意とします。29番の意見は中項目「情報の公開、提供及び共有」の内容 の「町政情報を公開します。また」を「町政情報を公開し、また」にするという意見です。作業部会は、そのように修正した方が分かりやすいと考えました。このように修正することでよろしいでしょうか。では、合意とします。

**牛山教授** 中項目「情報の公開、提供及び共有」の内容 を見ると、主語を「行政」に修正するべきではないでしょうか。

**高澤課長** 議会も説明責任を果たし、情報を公開することがあるので、「町」でも良いと思います。

**牛山教授** 「町」にすると町民も含まれます。そのような趣旨であれば、「行政及び議会は」にしてはいかがでしょうか。

**内山会長** 中項目「情報の公開、提供及び共有」の内容 についての主語を「行政及び議会は」に修正するべきという意見です。法制上整理するときに、そのように修正することになると思います。そのように修正しておくことでよろしいでしょうか。では、合意とします。30番から32番までの意見は、大項目「住民投票」に対しての意見です。30番と31番の意見は内容 の「本町」を「白岡町」に修正するべきという意見です。作業部会としてもそのように修正するという方向性案を出しています。32番の意見は、「満18歳以上の者は」を「満18歳以上で別に定める者は」に修正するという意見です。これは、前回の全体会議で町民からの意見と、そこから懸念されることを踏まえて、修正するという意見が出ています。作業部会としては、「別に条例で定める満18歳以上の者は」に修正す

るという方向性案を出しています。

**藤巻委員** 「別に条例で定める満18歳以上の者」とは具体的に誰を指しているのでしょうか。

**内山会長** 住民投票条例で定める要件が適用されます。

**高澤課長** 前回、町民の方から住民投票の国籍要件をどのようにするのかという意見がありました。つくる会では、現段階で明確に決めないという結論を出しています。「別に定める」という文言を入れないと、住所が白岡町にあり、18歳以上である人全てが対象になると読めてしまうので、「別に定める」という文言を入れています。これにより、国籍要件などを別条例に委ねることになります。具体的には、住民投票条例を後に作ることになっていて、そこで議論することになります。

**内山会長** このように修正することでよろしいでしょうか。では、合意とします。33番の意見は、大項目「次世代」、中項目「こども」の内容の「地域づくり」を「地域の環境づくり」に修正するという意見です。作業部会としては、「地域づくり」のままにするという方向性案が出されています。このままでよろしいでしょうか。では、合意とします。

**平田委員** 中項目「こども」の内容に「参加」という文言が使われています。「参加」にするか、「参画」にするかの議論はしましたか。私は、成長段階に応じて、「参加」ではなく、「参画」してもらいたいと思っています。

**内山会長** 「それぞれの成長段階に応じて」という言葉があるので、「参画」にしても良いと思います。

**神田副会長** 過去に議論したと思います。参画は参加よりも狭い意味で、計画、実践、評価に主体的に参加することを「参画」と考えていました。一方、部分的な参加や意見具申することは、「参加」と考えていました。子どもの成長段階に応じて、様々な参加があるべきだという考えから、広い意味の「参加」を使ったと思います。

**牛山教授** 「参加」と「参画」については、様々な考え方があります。みなさんが「参加」と「参画」を積極的に区別して、子どもと大人の場合で使い分けているのでしょうか。

**松井委員** 区別して使っています。「参画」は、企画などに参加することです。

**牛山教授** 「参加」と「参画」を明確に使い分けている意味を書かないと、これを読んだ時に使い分けている理由が分かりません。

**五十嵐委員** 子どものことであれば、「参加」にしておけば無難であるという議論があったと思います。

**櫻井委員** 読んだときに分からないのであれば、「参加」と「参画」を定義した方が良いと思います。

**高澤課長** 参画させないことを言っている条文ではありません。取りあえず、入って来られるという意味で「参加」を使っています。それ以上の段階の参画を否定しているものではないので、一般的な「参加」という言葉を使ったと思います。

**牛山教授** この項目以外にも「参加」という言葉を使っています。「参加」と「参画」の違いについての考えはみなさんの中でも違います。確固とした学説もない中で、「参加」と「参画」の両方を使っているのであれば、どちらかに統一するという文言整理をするべきです。

**高澤課長** 他自治体の条例を見ると、定義しているところもあります。一方、全てを「参加」にしている自治体もあれば、全てを「参画」にしている自治体もあります。結論として、どちらかにしなければいけないという答えは無いと思います。

**内山会長** 過去の議論で、住民参画を考え方に表現したことがあります。参加よりも積極的な関わり合いとして参画を使っていました。例えば、企画の段階から最後まで関わることを参画にすると考えていました。ここでは、私たちの強い意思を表現するために、「参画」という言葉に統一して使うことでよろしいでしょうか。

**櫻井委員** それでも良いと思いますが、町民から質問されたときにどのように答えるのでしょうか。

**遠藤委員** このつくる会の意思統一としては、「参加」と「参画」を区別していなく、条例の中では、「参画」に統一し

たという答えて良いと思います。

**日下委員** 参加の方が参画よりも広い概念であるということから、中項目「こども」では「参加」を使っているという経緯があります。しかし、統一するというのであれば、「参画」にすることで良いと思います。そのような経緯があることは忘れないようにするべきです。

**牛山教授** 「参画」と「参加」の違いは言葉のニュアンスの違いでしかありません。両方、同じだとイメージして、言葉を統一するべきです。

**五十嵐委員** 「参画」にすると企画立案のことをイメージしてしまいます。よって、「参加」にした方が無難だと思います。

**遠藤委員** 両方の言葉を混同しないように議論しています。同じ意味であることを前提に統一するということです。

**松井委員** 私は統一しなくても良いと思います。

**牛山教授** 「参加」と「参画」がどのように違うかという明確な定義はありません。よって、ここでは統一するということです。

**松井委員** これだけ意見が割れている中で、統一できるのでしょうか。

**遠藤委員** これだけ意見が割れているからこそ、統一しないと混乱します。

**日下委員** 統一しないのであれば、「参加」と「参画」の定義をしなければいけません。

**内山会長** 「参画」で統一することでよろしいでしょうか。では、合意とします。資料「白岡町自治基本条例」見直し意見とそれに対する方向性一覧 No.2をご覧ください。作業部会の結論も踏まえて議論したいと思います。1番、2番の意見は、松井委員からの意見です。

**松井委員** 私は、前文に理念を書くべきだと考えています。前文には、先進的なマナーや風土が書かれていません。この町独特の精神性などを書いた方が良いと思います。また、理念に「少子高齢化社会への対応」と書かれています。子どもに対しては、中項目「こども」が設けられているのに対して、高齢化については、どこにも書かれていません。そのことも書く必要があると思います。

**内山会長** 作業部会の方向性案は、議論済みとなっています。今の意見について、何かありますか。

**高澤課長** 精神性については、前文の「豊かな人間関係を育む」という部分に表されていると思います。2番目の意見については、高齢者をないがしろにしている訳ではありません。町を引き継ぐと言う意味で、大きなテーマである「次世代」という大項目を設けています。ここに入っていないからといって、大事ではないということになりません。

**神田副会長** 高齢者についての項目は過去にありました。議論していくうちに項目が消えました。全体の認識として、高齢者が大事なテーマでした。そこで、前文で入れておくということから、「少子高齢化」という文言が書かれているという経過があります。委員の中で、関心がないということではありません。具体的な条文案が出てこなかったことから、項目から削除されたと思います。

**松井委員** 「高齢者」はキーワードとしてどこかに書いてほしいと思います。また、環境問題として、新聞の回収や騒音などが問題になっています。住みよい環境を維持するための一文を設けたいという意見を過去にも出しました。再度ここで考えてほしいと思います。

**吉野委員** 環境問題については、「循環型社会」という言葉を当初書いていました。しかし、生活面での環境についても含めたいという意見があり、「暮らしやすい環境」という言葉になりました。松井委員の意見についても、前文に入っていると思います。

**内山会長** そのような議論が過去にありました。そのようなことから、議論済みになっています。

**五十嵐委員** このような議論をすると、時間がないので、議論を進めた方が良いと思います。

**遠藤委員** 「暮らしやすい環境」や「少子高齢化」という抽象的な言葉で書くことしかできません。細かいことを書いていくと、どこまで書いても終わりません。

**内山会長** 1番と2番については議論済みということによろしいでしょうか。では、合意とします。3番の意見は、大項目「総則」、中項目「理念」に対する意見です。主語の「町民及び町は」を「町民・議会及び行政は」に変更するという意見です。これは、法制上の整理に任せるという方向性案が出されています。そのようにすることによろしいでしょうか。では、合意とします。4番、5番の意見は、定義を一か所にまとめるという意見です。これは、既にまとめられているので、意見の通りになっています。これでよろしいでしょうか。

**野口委員** 「町」についての定義が入っていません。

**日下委員** 「町」は行政と議会にすると明確になるとと思いますが、全体会議では結論が出ませんでした。よって、法制上の整理に任せるということにしたと思います。

**牛山教授** ここでの「町」は地方自治法上の公法人としての地方公共団体です。よって、定義しなくても明らかです。

**遠藤委員** 同じことを定義に書けば良いのではないのでしょうか。

**内山会長** 「町」は定義をしなくても明確であるということによろしいでしょうか。では、合意とします。6番についてはどのような意味でしょうか。

**野口委員** 先程の議論を聞き、この意見については議論しなくても良いです。

**内山会長** 7番の意見についても議論済みということによろしいでしょうか。では、合意とします。8番の意見は、日下委員からの意見です。

**日下委員** 参画と協働は大きなテーマであり、公募を前面に出していきたいと考えています。結論が出ていなかったと思うので、意見として出しました。住民参画条例などで議論するのであれば、それで良いと思います。

**神田副会長** 私も同じような意見を過去に出しました。しかし、公募だけではないということから削除された経緯があります。日下委員の意見については議論して、結論も出ています。

**日下委員** 自治基本条例に書くことで、白岡町の1つの特色にした方が良くと思います。別条例で議論してみてもいかがでしょうか。

**内山会長** では、議論済みということによろしいでしょうか。では、合意とします。9番の意見は、大項目「行政」の中項目「町長の責務」に対する意見です。ここの「住民協働」を「協働」に修正するという意見ですが、作業部会としても文言を統一するために、「協働」に修正するという方向性案を出しています。これでよろしいですね。では、合意とします。10番は大項目「行政」の中項目「職員の責務」についての意見です。金子委員からの意見です。説明をお願いします。

**金子委員** 大項目「行政」の議論の際に欠席したので、議論済みということであれば、それで結構です。

**高澤課長** この議論済みという意味は、法律上、書いていることも条文に書いているという意味です。法律に書いていても、ここに書きたいことは書いているという合意を取っているもので、議論済みとなっています。

**内山会長** 結論としては議論済みということによろしいですね。では、合意とします。

**高澤課長** 11、12、17番については文章の語尾の表現についての意見です。これは、それぞれの内容に違ってくるものなので、法制上整理させていただけないでしょうか。

**平田委員** 語尾によってニュアンスが違ふと思います。そのような意味から意見を出しました。

**内山会長** 法制上整理することによろしいでしょうか。では、合意とします。13番、14番の意見は定義をまとめると

いう意見であり、既に行っているものでこれで良いと思います。15番については先程議論しました。16番は中項目「情報の公開、提供及び共有」と、白岡町情報公開条例との関係性についての意見です。作業部会の方向性案としては議論済みになっています。

**日下委員** 情報公開についての別途条例があれば、「別途白岡町の情報公開条例による」などの表現を書く必要があると思います。

**高澤課長** 情報公開については、別条例があるという理解は共通認識としてありました。その条例名を具体的に条文に入れるという意見ですが、他にも行政手続などもあります。これが基本の条例であることを考えると、条例名を入れなくても伝わるように思います。

**日下委員** 分かりました。

**内山会長** では、議論済みということですのでよろしいですね。18番の意見の説明をお願いします。

**日下委員** このつくる会が発足した当時、白岡町の特徴や強調したいことを条文にしたいという共通理解がありました。全体ができたので、どこが白岡町の特徴であり、強調したいことを明確にして、委員の共通認識を作りたいと思います。

**遠藤委員** 事務局がまとめの作業をするので、この条例の特徴や強調したい点を資料として作っていただけると分かりやすいと思います。

**日下委員** 議論済みではないと思います。共通認識としてこの条例の特徴や強調したい点を理解しておく必要があると思います。

**内山会長** 共通認識ができるように事務局に整理してもらうことでよろしいでしょうか。では、そのように事務局にお願いしたいと思います。19番の意見についての説明をお願いします。

**日下委員** 「町」についての定義の結論は出なかったと認識しています。そこで、法令の専門家の意見を聞いて、まとめた方が良くないか、意見を出しました。

**内山会長** これについては、先程議論しました。これで、資料「『白岡町自治基本条例』見直し意見とそれに対する方向性一覧(No.2)」の検討を終わります。以上で全体会議を終わります。

**高澤課長** この会は昨年の8月に発足して、約1年3か月、本日で27回、作業部会は18回開かれました。本格的な議論は本日で終わりとなります。改めて、お礼の言葉を申し上げたいと思います。委員の方々は、1年3か月という長い議論を積み重ねていただきました。誠にありがとうございました。白岡町として、公募の委員の方が一から条例を作るということは初めてのことです。私は途中から参加させていただきましたが、実際に参加すると、多少議論が熱を帯びる時がありましたが、全体的に温かい、和やかな雰囲気でした。そのような意味では、職員と委員の方々の「協働」で素案づくりができたと思います。本日のように、最後に整理をすると、みなさんの一番強い思いがあるところに対して、意見が出てきます。しかし、そのような議論ができる環境があることにありがたいと感じました。職員もみなさんの想いを受け止めていきたいと思っています。それが協働のまちづくりにつながっていくと思います。これからのフォーラムや地域説明会へのご協力をお願い申し上げまして、御礼の言葉にかえさせていただきたいと思っています。ありがとうございました。また、牛山教授には、白岡町の住民協働に対する活動から適切にご指導いただいています。自治基本条例についても適切なご指導とアドバイスをいただきました。様々なことがありましたが、ここで一区切り付けることができました。厚く御礼申し上げたいと思います。ありがとうございました。